

大豆新品種「むらゆたか」について

中村大四郎・*岸川英利・*高木 胖・**野中和弘・松雪セツ子・横尾浩明・

広田雄二・執行敏子（佐賀県農業試験場・*佐賀大学・**佐賀県農業大学校）

Daishirou NAKAMURA, Hidetoshi KISHIKAWA, Yutaka TAKAGI, Kazuhiro NONAKA, Setsuko MATSUYUKI,
Hiroaki YOKOH, Yuji HIROTA and Toshiko SHIGYO : A New Soybean Cultivar "Murayutaka"

佐賀県農業試験場で育成した「むらゆたか」は、1990年から佐賀県の奨励品種として採用された。ここに本品種の特性等の概要を報告し、普及上の参考に供したい。本品種の育成に当たっては、多くの関係者各位に多大の協力をいただいた。ここに厚く御礼申し上げる。

1. 来歴及び育成経過

1984年に佐賀大学育種学教室で、「フクユタカ」の気乾種子（約10Kg）にX線（24kR）を照射し、同年と翌年当場に於て晩播密植を行い、M₂世代において白目に変異した7個体を選抜した。その後、選抜個体を単独系統として固定を図ると同時に、生産力検定試験に供試した。その結果、その結果が良好であったので1988年「むらゆたか」と命名し、種苗法に基づく品種登録の申請を行い、1990年4月に登録された。

2. 特性の概要

1) 形態的特性 主莖長は原品種の「フクユタカ」と

第1表 「むらゆたか」の特性（佐賀農試 1987~'89）

栽培条件	早播		標準播	
	むらゆたか	フクユタカ(標)	むらゆたか	フクユタカ(標)
品種名	むらゆたか	フクユタカ(標)	むらゆたか	フクユタカ(標)
早晩性	晩の早	晩の早	晩の早	晩の早
開花期(月・日)	8・13	8・15	8・24	8・24
成熟期(月・日)	10・30	10・30	11・9	11・9
主莖長(cm)	79.7	79.0	68.0	63.7
主莖節数(節/本)	17.5	16.9	15.8	14.9
分枝数(本)	5.0	5.1	4.8	4.5
稔莢数(莢/本)	75.1	66.0	57.9	60.3
花色	紫	紫	紫	紫
熟莢色	淡褐	淡褐	淡褐	淡褐
粒形	球	球	球	球
種皮色	黄白	黄白	黄白	黄白
臍色	黄	淡褐	黄	淡褐
子実重(Kg/a)	34.7	32.4	32.0	33.1
同上対標比(%)	107	100	97	100
百粒重(g)	28.7	28.9	29.1	30.1
品質	上下	上下	上下	上下
生育中 の障害	倒伏 ウィルス病 葉焼病	中 無 無	中 無 無	少 無 無
粒の 障害	紫斑粒 褐斑粒 裂皮粒	極微 無 微~少	極微 無 微~少	極微 無 微~少
粗蛋白質含率(%)	41.0	41.4	42.2	42.1
粗脂肪含率(%)	20.4	20.5	19.7	19.7
分析場所	S.62は佐農試、S.63は佐賀大学、 平成1は長野県中農農試			

同様に標準播では短であり早播すると伸びるが、「フクユタカ」より若干長い。主莖節数は「フクユタカ」より幾分多いが、分枝数はほぼ同じである。また、早播すると稔莢数が多くなる。粒大は「フクユタカ」同様中粒の大であるが、やや小さい。粒形は球、子実色は黄、種子色は黄白である。臍色は「フクユタカ」の淡褐に対し、黄である。外観品質は「フクユタカ」と同じ良質で、紫斑、褐変粒の発生は少なく、裂皮は「フクユタカ」並みである。

2) 形態的特性 開花期・成熟期は「フクユタカ」並みの晩の早に属する秋大豆型で、耐倒伏性は早播では「フクユタカ」同様中であるが、標準播では強である。収量は早播では「フクユタカ」より多収であるが、標準播では「フクユタカ」並みや劣る。

葉焼病の発生は「フクユタカ」同様少なく、ウィルス病の発生は認めない。粗蛋白質含有率は「フクユタカ」同様高く、粗脂肪含有率も差を認めない。

豆腐にした場合、「フクユタカ」よりも色が白く外観が優れ、食味も「フクユタカ」並みで良好である。

第2表 豆腐官能試験結果

品種	総合	外観	色	味	基準品種
むらゆたか	0.51**	1.02**	1.02**	0.15	フクユタカ
エンレイ	-0.24	-0.29*	-0.24	-0.20	〃

注) '88 12. 23 パネル41名で実施。* **は5%、1%レベルでそれぞれ有意差あり。

3. 奨励品種採用理由

佐賀県では「フクユタカ」が大豆作付のほとんどを占めている。この品種は栽培特性、収量等に優れ、しかも蛋白質含有率も高いので豆腐製造には好適である。しかし、臍色が淡褐であるため用途が限定され、販路も制限されるという欠点もある。

「むらゆたか」は「フクユタカ」とほぼ同じ栽培特性を持ち、外観品質に優れ、豆腐製造に好適な品種であるので、佐賀県の銘柄大豆としての普及が見込まれる。

4. 適地及び栽培上の注意

本品種は「フクユタカ」栽培地帯に好適するが、栽培に当たっては以下の点に留意する必要がある。

1) 適期播種に努める。播種適期は6月下旬~7月中旬である。

2) 栽植本数は6月播では7~8本/m²、7月上旬播では10本/m²、7月中旬播では15本/m²を標準とする。

3) 早播すると過繁茂で倒伏しやすくなるので、密植を避ける。また十分に培土を行う。

4) ハスモンヨトウ・カメムシ等の防除は早めに実施する。